東日本大震災報告 Part 15

2011. 3. 11

いしのみなと教会
牧師　金谷政勇

女川町飯子浜 ―
大阪の本場のお好みと、『京都王将』も
まっさおの焼きギョウザで炊き出し

とても元気なおばさんに出会いました。京都、大阪の福音交友会から派遣されたチーム 4 名（リーダー：閨谷師）の方々と、9 月下旬に支援活動に来られた時のこと、蛇田西部第二仮設団地を訪問した時のことです。

「市役所の人が、今後復興に伴う支援計画の説明会を開いた時、集まった人たちからは、『あれしてくれ、これしてくれ』ということばかり。そこで私は言ったの。もう充分してもらったから。もういいですって。だって、長靴までくれって言う人もあんだよ。それでさ、『こんな住みやすい仮設建ててもらって、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機、みんなもらってこんな感謝なことないんじゃないの』って。そしたら、『あんたは金持ちだからいいっぺ！』だってさ。何言ってンの。みんなぜいたくになってきて…。感謝が足りないのよ。」

そのやり取りが行われた説明会で、彼女の発言を聞いた市役所の人がこう言ったそうです。

「いいですか、みなさん。今とても大切なことが言われたんですよ。わかりますか？あれもこれもと、行政もぜんぶできませんよ。今あるもので精一杯がんばるしかないんです。」

横で座って聞いている同じ仮設の住人の方は、彼女の話に頷く人と、また苦笑いする人も。

蛇田仮設第二 ―
ひと言で言えば、『強烈』でした。
その話っぷりがとても楽しく

「感謝が足りない。」う～ん、と考えさせられました。でも、それが行政に利用されるような形で理解されることは、被災者の現実と行政の計画とにますますギャップが生まれてくる要因とならないだろうか、危険性があるとも思わされました。

また、「あんたは金持ちだから」というのも、けっして本気でそうは言っているのではないこともわかります。ただ、そこにある種の不満が見て取れますし、満たされていない仮の生活という現実があることを見逃してはならないと思わされました。

その翌日、チームにはさらに関係も深まりつつある女川町飯子浜で、炊き出しのあとの交わりで、折り紙の手ほどき、そして最後に『主われを愛す』の讃美と証で福音を伝えました。

被災された方々の中には、なぜ私どもが支援活動をしているのかを、『いい人たちだから』と、

福音交友会チーム
お好み焼き、餃子、
芸達者、みな調和
がとれていました

女川から遠く離れて避
難生活した方は、今な
お落ち込むことが。で
も、この訪問でとても
元気が出たと喜ばれて

そう思って下さっている方々が大勢います。だから継続して何度も訪ねて来てくれている、こんな辺鄙なところまで、とても有り難い、と。確かに、そう思われているからこそ、また次に、また次にと、ある意味安心してその所々に通うことができていると思います。ですが、キリストにつく者は、そのようなことで満足することはありません。むしろ、支援活動の未完、それ

に伴う新たな課題を突きつけられています。

★　☆　★

仮設住宅を巡回し、時にチームによる大きな助けと慰めを受けて一丸となって訪問したりして行動しています。毎回毎回、どのようなことが私どもにできるだろうかと祈り、また聞き取る努力をしてきましたが、思わぬ展開へと進むこともあります。

第 10 次日野キリスト教会ディアコニア・チームと野々浜を訪れた時のことです。主日礼拝日前夜、真夜中をこえて、チームの方々が精魂込めて準備してきてくださった『水ギョウザ』を、仮設の方々と一緒に作って、とてもなごやかな雰囲気のもとで交わりをされていました。

野々浜の方は、水餃子を食べることは、ほとんどないと言われて

主日の愛餐と共に、夕方の炊き出し計画、そのため日野教会チームには、また真夜中まで準備を強いてしまい、それでも、お一人お一人が『主のために』と、熱心に仕えられました。

野々浜仮設の水田さんが、わざわざテーブルを超えて私のすぐ隣に座ってきて言われました。

「おらたち夫婦はさぁ、へたすっと村八分されてしまうかもって思ってさぁ。」

「えっ？どういうことですか。」

津波が襲来する時に、車で村を脱出し、しばらく娘のところに身を寄せて生活していたということでした。同じ村の人たちには一切連絡できなかったし、またしなかったので、集落の人たちにはわからなかったというのです。

ところが、仮設住宅が建つということで戻って来たけれど、何の連絡をもしなかった後ろめたさがある。漁師らは、津波による船の転覆や陸に打ち上げられないため、緊急避難で船を沖に出すが、村の人たちが心配で、逆に浜方向へと船を転回させて戻った人もいる。それに比べたら、自分は村を捨てたようなものだから…、と言うのです。「肩身の狭い思いがしていた時に、教会の支援物資が運び込まれて、伊藤さん（元石巻キリスト教会顧問牧師）が一所懸命に配って、みんなに良くしてくれた。そして、自分も

第十次日野キリスト教会チーム ― 手際よく、連日真夜中過ぎまで準備し、丁寧な奉仕のわざにいつも感嘆します

そこに入れてもらい、本当に助かったんだぁ。」

集落から離れ、避難所での共同生活をしなかった水田さんは、自分たちがどのように見られ、思われているかが心に重くのしかかっていたようです。でも伊藤先生が、支援を丁寧にしておられたことによって、わだかまりが消えていったのでしょう。とても感謝しておりました。

ある税理士の方から聞いた話では、同じ地域出身者が、同じ仮設団地で隣同士になった途端、険悪な関係になったというのです。物理的な距離が、隣同士という密接なものになって、そこで人間関係がこじれてしまったケース。

小さな漁村、まとまりが良く、物事が決めやすいなかで、復興への足取りが進んで行きやすいと思うところがたくさんあったので、これには少々当惑させられたのです。

それはこういうことでした。集落の一軒一軒がみな適度に離れていたところ、ある意味ではそれが濃密な人間関係になる傾向への緩衝となっていたのでは、と。ところが、同じ地域、同じ仮設団地ということが、必ずしも良い結果とはならないこともあるのかと…。

思い当たる節がありました。昨年の夏に訪れていた小乗浜の男性が言ったことです。「こっちは保険かけていたからすぐにおりたけど、何もない人は大変だ。」タバコを吸いながら、『何もない人』と言った時の、飄々とした表情を思い出します。言葉にある種の、すでに関係が切れているようなニュアンスを感じました。私どもは、その『何もない人』にこそとどきたい、そして、『何もない人』が実は誰なのかという問題に取り組み、支援活動を継続していきたいと願っています。いつもご支援を感謝しつつ、引き続きお祈りを、よろしくお願いいたします。

支援物資、救援ボランティア、義援金をお送り下さった皆様へ、心より感謝を申し上げます。（敬称略）

【教会･団体】　　9 月 16 日― 10 月 31 日

ワールド・ヴェンチャー、台湾基督教恩恵福音會、国際シャロームキリスト教会、池田キリスト教会、岩倉キリスト教会、京都聖書教会、岸和田東聖書教会、高石聖書教会、野沢福音教会、福音交友会、 寒河江キリスト教会、生田丘の上キリスト教会、(株)サンビルダー

【個人】

林茂宏、文亮、杣浩二、由貴、津嶋理道、小寺肇、久道功、宗廣信朗、朴榮哲、林美香